

観光庁のご紹介

観光庁

平成30年11月27日

観光立国の意義

成長戦略の柱

急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の国際観光需要を取り込むことによって、日本の力強い経済を取り戻す。

地域の発展の鍵

人口減少・少子高齢化が進展する中、国内外からの交流人口の拡大や旅行消費によって地域の活力を維持し、社会を発展させる。

国際社会での日本のパワー

諸外国との双方向の交流を通して、国際相互理解を深め、我が国に対する信頼と共感を強化する。日本のソフトパワーの向上によって、国際社会での日本の地位を確固たるものとするために、極めて重要。

自らの文化・地域への誇り

観光で国を開き、外国の人々に日本文化や日本人の本質に触れて貰うことを通じて、日本人自らも、その価値を再認識し、自らの文化や地域を誇りに思う。

明日の日本を支える観光ビジョン 新たな目標値

安倍内閣5年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

- ・ **訪日外国人旅行者数**は、**約3.5倍増の2,869万人**に
(2012年) 836万人 ⇒ (2017年) 2,869万人
- ・ **訪日外国人旅行消費額**は、**約4倍増の4.4兆円**に
1兆846億円 ⇒ 4兆4,162億円

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年： **4,000万人**
(2015年の約2倍)※

2030年： **6,000万人**
(2015年の約3倍)※

訪日外国人旅行消費額

2020年： **8兆円**
(2015年の2倍超)※

2030年： **15兆円**
(2015年の4倍超)※

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年： **7,000万人泊**
(2015年の3倍弱)※

2030年： **1億3,000万人泊**
(2015年の5倍超)※

外国人リピーター数

2020年： **2,400万人**
(2015年の約2倍)※

2030年： **3,600万人**
(2015年の約3倍)※

日本人国内旅行消費額

2020年： **21兆円**
(最近5年間の平均から約5%増)※

2030年： **22兆円**
(最近5年間の平均から約10%増)※

※ ()内は観光ビジョン策定時である2015年時点との比較

霞ヶ関全体の観光先進国への取り組み(例)

訪日プロモーション

日本の魅力をPRし、外国人の日本への訪問を強く動機付けるべく、海外広告宣伝や海外メディア招請、旅行博出展などの訪日プロモーションを強力に実施

観光庁・外務省・経産省・農水省等



航空

国交省



クルーズ



ビザ・C I Q

外国人が日本を訪れやすい環境を整備するため、ビザ要件の戦略的な緩和や、C I Q体制(税関・出入国管理・検疫)を整備

国交省・法務省・外務省・農水省・厚労省・財務省



受入



国交省

二次交通

発信

政府一丸となった観光振興が必要

受入環境整備

受入

受入

観光地域づくり

国交省・総務省・経産省・文化庁等

訪日外国人旅行者が日本に滞在する際の不便や不安を解消すべく、無料Wi-Fi環境の整備や多言語対応の強化、免税店の拡大など、受入環境整備を実施



国交省・農水省・環境省・文化庁等

外国人旅行者を惹き付ける観光地づくりを進めるべく、各地域の広域的な連携を促進するとともに、地域の観光資源を発掘し、徹底的に磨き上げ



観光庁の概要(平成30年10月1日現在)

